

Vascular Street



南区 Life Style Careフォーラム
◎パネルディスカッション

「より良い病診連携をめざして」



司会
福岡大学病院
循環器科 副部長
松永 彰先生



山崎内科クリニック
院長
山崎 節先生



なんぶ内科胃腸科
クリニック
院長
南部 匠先生



福岡大学病院
神経内科・健康管理科
上原吉就先生



福岡大学病院
循環器科
安田智生先生

松永 それでは、南区Life Style Careフォーラム「より良い病診連携をめざして」のパネルディスカッションを始めます。
パネルディスカッションに先だって皆様にあらかじめアンケートをお願いしました(回答数33名)。アンケートの回答に即してディスカッション行います。まず、今までに福岡大学循環器科に患者さんを紹介されたことがありますかという問いでは、紹介経験のある先生が18名、ない先生が15名でした(表1)。福岡大学病院循環器科の病診連携につ

いてのご評価では、患者さんの受け入れ態勢が3.15点、夜間緊急患者の受け入れは2.5点、その後の報告・フォローは3.27点でした。表2の診断に難渋した患者さんの相談率と相談に対する先生方の満足度では、相談率が22.5%で満足度3.1点で決して良くはないと思います。福岡大学病院から逆紹介の満足度では2.25点ということで非常に低い結果でありました。
表3は、南区で主に連携されている施設、また、現在の連携に対する満足度です。施設名としては

①今までに福岡大学循環器科に患者さんを紹介されたことがありますか?	ある <input type="checkbox"/> 18名	ない <input type="checkbox"/> 15名
②現在の福岡大学病院循環器科の病診連携についてご評価をお聞かせ下さい。 ・連絡をした時の患者さんの受け入れ体制	(良い) 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> (悪い)	3.15点 (18)
・夜間、緊急患者の受け入れ	(良い) 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> (悪い)	2.50点 (8)
・受け入れてもらった患者さんのその後の報告・フォロー	(良い) 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> (悪い)	3.27点 (18)

表1

③診断に難渋した患者さんの福大病院への相談率と相談に対する先生方の満足度をお聞かせ下さい。	・相談したことがある 10名	・相談率 (22.5%)	(良い) 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> (悪い)	3.10点 (10)
④福岡大学病院からの逆紹介に対する満足度をお聞かせ下さい。	(良い) 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> (悪い)	2.25点 (8)		

表2



⑤主に連携をされている施設、また、現在の連携に対する満足度をお聞かせ下さい。	
・施設名 (福岡赤十字病院 29、九州中央病院 17 九州医療センター 5、済生会福岡病院 4 福岡徳洲会病院 4、福岡病院 3、 九州がんセンター 3、佐田病院 1、 那珂川病院 1、九州大学病院 1)	
(良い) 4□ 3□ 2□ 1□ (悪い)	3.62点 (31)
⑥連携をされている施設を選ぶ理由をお聞かせ下さい。	
<input type="checkbox"/> 地理的に近い	28名
<input type="checkbox"/> 患者さんからの希望	20名
<input type="checkbox"/> 送り先の先生をよく知っている	17名
<input type="checkbox"/> 連携の会が頻繁にありその施設の治療方針を理解している	9名
<input type="checkbox"/> 受け入れ体制が簡便	20名
<input type="checkbox"/> その他 (医療内容が良い)	

表3

福岡日赤、九州中央病院、医療センター、済生会、徳洲会、国立病院機構福岡病院、がんセンターなどが多いようです。満足度も3.62点とかなり良い評価であります。連携施設を選ぶ理由では、一番多いのが地理的に近い、患者さんの希望、受け入れ態勢が簡便である、送り先の先生を知っているの順となっています。全般的なご回答に関してパネルの先生方にご意見を伺いたいと思います。福大病院の病診連携の満足度の点数が日赤などの病診連携の点数に比べると少し低いよう思うのですが如何でしょうか。

山崎 まず、どういう状況で紹介したかがあると思いますね。私の経験からも考えて、大学の印象が悪いのは急患に対する対応がスムーズにいかないことだと思います。例えば、比較的落ち着いた患者さんに対して紹介するというのであればそんなに問題ないかもしれません。しかし、実際胸が苦しいとって来られた患者さんをどこに送るかということになると、いかに対応を速くやってくれるか、ということを考えてどうしてもその差がでてくるのではないのでしょうか。以前、急患ではない症例を送ろうとしたところ時間がもう遅いので今日は受け付けられませんか地域連携室で言われた経験があります。そういう面で、入口の所でひっかかるというところはあると思います。

南部 現在、南区は基幹病院が非常に充実していて私達はすごく助かっています。まず一つは、検査が電話で予約できることです。電話で予約を入れられて検査の日時を決めてもらうのですが、患者さんはその日のその時間に行って検査だけ受け

て帰ってきます。そして、同日の夕方遅くに結果がFAXで送られてきます。サービスの質が高いものですからとても助かっています。また、実際の診療依頼は手紙を持って行っていただいていたんですけど、返事はその日の夕方遅くFAXでちゃんと届きます。その辺りは難しいかと思いますが、参考にされたらいいかなと思います。

松永 検査については大学病院では、検査だけというのはなかなか難しい面がありますね。通常、検査は診察と共になりますので。もちろん検査をして下さいということで担当医に紹介していただければそのとおりにいたします。ただ、先ほど言われましたようにその日のうちに返事が出せるという体制は非常に大事なことです。参考にさせていただきます。もう一つ良い理由で、受け入れ態勢が簡便だというご回答が比較的多かったと思いますが、それについてはいかがでしょうか。

山崎 具体的に私自身は大学だから受け入れ態勢が複雑だという程の印象は受けていないと思います。先ほど申しましたように、福大の場合は逆に時間外だから明日にしてくれというようなことが実際におこったんですね。例えば日赤であれば17時までは病診連携室が対応します、それ以降は、夜間の窓口の人間がダイレクトの電話に対応するというシステムを公表してありますので、いつでも同じ番号に電話すれば日赤の急患対応の所につながるようになっていきます。

松永 要するに昼間是对応する人が違うけれども、同じ所に連絡すればよいということで、連絡する側からしてみれば確かに簡便だと思います。

南部 確かに、連絡先が一本化しているというのは、こちら側としてはやりやすいですね。そこが大きいと思います。山崎先生が言われたとおりですね。

松永 それでは、福大病院からの逆紹介が比較的悪いと思いますが、この点についてはどのように考えますか。

上原 非常に難しい問題ですが、逆紹介の満足度が悪いというのは逆紹介が少ないということだと思います。地理的に遠いというのものもあるんですが、大学しかいやだという患者さんが実際多くて、私達も外になかなか逆紹介できないという現状もあります。逆紹介するにしても面識のある先生につ

い逆紹介してしまうことになる、一ヶ所にどんどん行くということになってしまいます。実際、経験した事例では、患者さんが希望して自分の近所にこういうクリニックがあつてそこでフォローしてもらいたいと言われたのですが、病診連携に言うと登録がなかった。登録を病診連携室にお願いして開業医の先生にかけていただいたら断られた。逆紹介されるのを嫌がる先生もおられるようです。そう思うと面識のない先生に書くのは失礼かなとも思いました。したがって、つい知っている先生に書いてしまうということで、なかなか色んなところに出せないというのが現状ですね。

松永 上原先生は総合診療部にも関わっていると思うんですが、総合診療部では、逆紹介というのはどうなんでしょうか？

上原 総合診療部はどうしても患者さんが増えてきますので新患を極力診るということで再診は急性期以外は診ないという方針にしています。

松永 例えば院内で紹介するのではなくて、逆紹介することはあるのでしょうか。

上原 基本的には全例逆紹介するようにしています。しかし、半数以上は大学で診て欲しいという方が多いですね。そういう方はしかたがなく院内の他の科にまわしますが、それ以外は基本的に逆紹介するようにしています。どうしても何ヶ所か決まった所に紹介してしまいますね。

松永 わかりました。それでは表4をご覧ください。これは個別にいただいたご意見です。病診連携でお困りの点や連携に対する要望では、予約に時間がかかる、遠すぎる、交通の便が悪い、先ほど言われたような検査だけ単独で紹介できるようにし

て欲しい、満床で入院できないことがある、福大病院の地域連携室に夕方電話しても連絡がつかないなどのご意見があります。最初の紹介先の医療機関からさらに専門科医へ紹介された場合にそこからの返事が届かない場合がある、これもよくある事例だと思いますが、病棟医長の安田先生はどのように考えますか。

安田 実際にうやむやになってしまうケースが多いということで、なるべく手がかりだけでも残せるように、少なくとも当科を転科・転出した際にはそれまでの結果だけでもご報告するように努力しています。

松永 例えば、外科に転科して手術だけとかだつたらわかりやすいと思うんですが、慢性疾患だと追えないことが多くなりますかね。

安田 そうですね。慢性疾患だと専門科の方で最終的にフォロー、そちらの方も関連病院の方へ移るとなると確認がなかなか出来ないのが現実です。

南部 福大病院は、例えば私達の所から、近くの病院に紹介させていただいて、その患者様がもう一度福大へ行くという形が多いと思います。病院へお返事を書かれる時に先生方はもう一つ突っ込んで、どこから紹介された人が今ここにいるのかということを確認められて、紹介された病院ともう一つ元の先生の名前を確認められてそこにも返事を送られたら逆に先生方は利用できると思います。近くの病院に紹介しているのに福大の方から詳しい返事が来たということになると私供はとても助かりますね。大変でしょうけれど、工夫されてみたらいいんじゃないかなと思います。

松永 ある程度対応しています。現場でチェックしている場合にも、わかることがあります。退院サマリーを2ヶ所に出すということだけですから、それほど手間ではないので比較的出来ていると思います。ただ、その前のお話のように更に別の科に転科されてしまうと対応は出来てないと思います。

安田 今現在の当科のサマリーは、当院へ紹介していただいた病院と当院からの紹介した病院へ必ず書くよにしております。紹介病院のその前の所までは確認していないのが現状ですが、現原病歴を聞いている時点で解っている事だと思っておりますので、その辺りも工夫したいと思います。

○現在の病診連携でお困りの点や連携に対する要望

- ・ 予約に時間がかかる
- ・ 遠すぎる、交通の便が悪い
- ・ 負荷試験や心エコー等の検査が単独で紹介できるようにして欲しい
- ・ 満床で入院できないことがある
- ・ 福大病院の地域医療連携室に夕方電話をしても連絡がつかない。せめて、17時くらいまでは連絡がつくようにして欲しい
- ・ 最初の紹介先の医療機関から更に専門病院に紹介された場合、そこからの返事が届かない場合がある

表4

松永 南区の地図を見ると、日赤、中央病院、徳州会、国立福岡病院、がんセンターとかなり囲まれていて、特に大橋の近辺では、かなりこれらの病院に近く、先ほど南部先生、山崎先生が言われたように福岡大学病院は遠いようです。図1は福大病院の地域連携室のホームページの一部です。最近、やっとFAXの受付時間が変わったということで、平日は終日夜でもFAXは稼動しています。ただし、電話では夜でも地域連携室から切替って、誰かが対応するという形にはなっていません。数ヶ月前までは早い時間にFAXも止められていましたのでその点が少し改善されましたが、土曜日などは、まだ短時間の受付となっています。

漢 循環器科ということではないんですが、病診



漢 幸太郎氏

連携室に紹介状がありますね、福大のものは一番ダメですね。日赤病院の紹介状は非常に良く出来ている。福大病院の紹介状は不備な所が色々ある。例えば記載日と紹介する日を分けて書かないとか、1枚目に関しては事務的なものだけになっているとか、同じことを書かないといけないとか、とても無駄が多いような気がするのをそれを改善していただきたいですね。

松永 その点もつい最近少し改善されたように聞いています。もう一度お試し下さい。循環器科に関してはどうでしょうか。

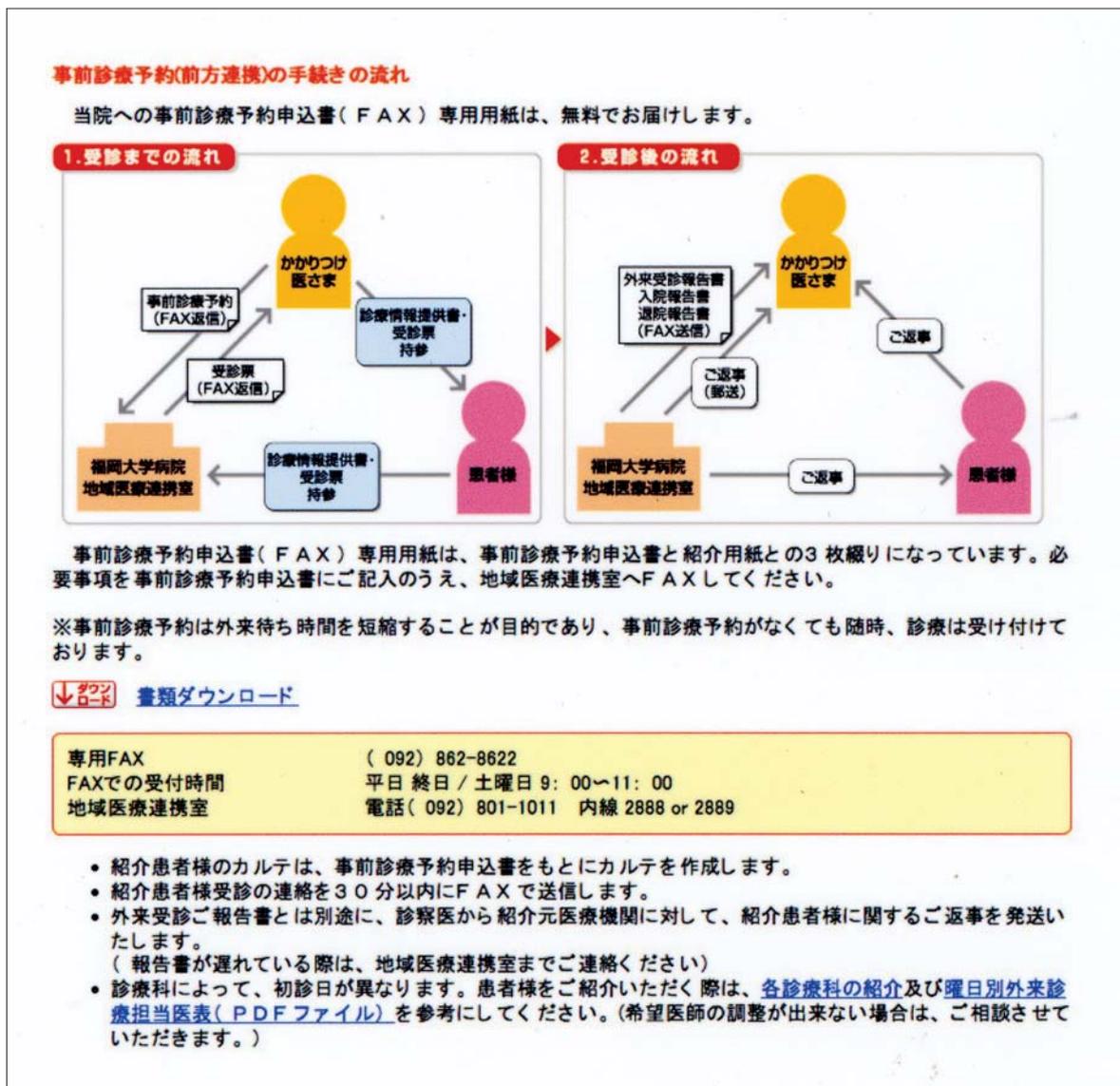


図1

漢 本当はたくさんの患者さんをお送りしたいのですが、長住からは公共交通機関がない、便が良くないので患者さんの希望は日赤病院にお願いしますとか、九州中央病院にお願いしますという方が多いですね。

榎木 以前、循環器科ではないのですが、髄膜炎をこじらせてなかなか引き取り先が無くて、結局福大の救急部をお願いしたらすぐにとっていただいた。かなり重症の患者さんでしたが、時間外の循環器疾患の場合は救急部と循環器科でどのような受け入れの仕組みになっているのでしょうか。



榎木康弘氏

松永 福大病院の循環器科の場合は24時間対応しております。福大病院に電話をされて、循環器科の医師、お昼であれば誰でも大丈夫だと思いますし、夜であれば当直に連絡していただければすぐ対応いたします。また、救命センターの方に連絡いただいてもかまいません。ただ救命の場合当直医が循環器の者でないことがありますのでその時には対応がワンステップ遅れ

るかと思いますが、循環器科の医師が救命センターにもおり、夜間も対応しております。

山崎 救急とかそういうレベルでいうと市中病院と張り合おうとするのは大変な部分であり、特に南区では困難であると思いますね。やはり、不整脈・心不全の治療ですとか大学の特色をもっとアピールして、こういったものはぜひ送ってもらうというふうな所を機会ある度にアピールされるのが良いと思います。循環器といえば福大といわれるように。症例数を集めるためには様々な機会に朔先生以下皆さん出て行かれてお話しをされ、アピールするということが大事だと思います。また、今日も入口で配られました新しい朔先生のジャーナルを作られていますし、これからもどんどんアピールされていかれると思います。ただし、同じようなことを九大もやっているのは事実なので、それを巻き返して頑張っていたらいいと思います。

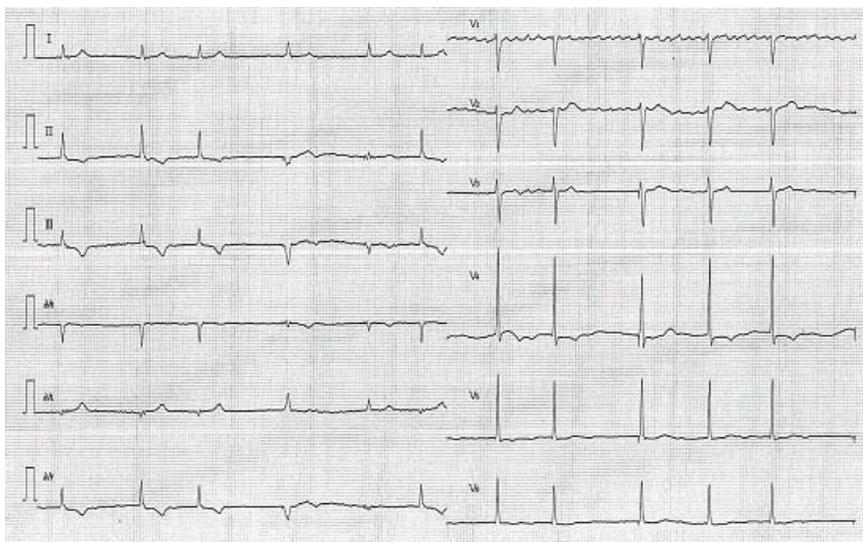
松永 今日は大変参考になるご意見をありがとうございました。貴重なご意見をいかして明日からのより良い病診連携に努めたいと思います。ありがとうございました。



One-point lesson for medical students

【症例】 70歳女性。5年前にペースメーカー植え込み術が施行されている。外来での心電図を示す。

Q.当科受診時の心電図の所見は？



【解説】

まず、心電図をみるとR-R間隔の不整が目立ち、特にV1誘導で基線波形に細動波(f波)を認め、基本調律は心房細動である。QRS波形は3拍目までと4拍目とは異なり、4拍目をよくみるとQRS波形の最初にスパイク波形がありペースング波形と判断できる。これらから、この症例は徐脈性心房細動によりVVI型ペースメーカー植え込みとなったことが推察される(もちろんDDD型の可能性もある)。また、3拍目から4拍目までの間隔が25mmでありバックアップペースングは60回/分である。このことから、徐脈性心房細動によりVVIペースメーカー(または心房細動に洞機能不全症候群を伴いDDD)の植え込み術が行われたのではないかと推測できる。胸部誘導での3拍目のペースング波形はQRS幅がペースング波形としてはやや狭く自己脈の波形に近いことからペースング波形と自己脈の融合波形である可能性が考えられる。またf波がかなり小さく、長期の心房細動歴が疑われた。少し難しくなるが、II、III、aVF誘導では陰性T波がみられ下壁心筋の虚血性変化が疑われ、基礎疾患として虚血性心臓病が考えられる。



安田 智生先生

福岡大学病院循環器科
日本内科学会認定内科専門医・
循環器専門医